

もちつき大会

12月11日(日)に天保山商店会のもちつき大会に参加しました。商店会のご好意で毎年学習者が参加しています。そのうちの二人の感想を紹介します。

◎日本の文化に興味がありましたので、日本へ来る前に、よくテレビで日本についての番組を見ました。「もちつき」はテレビで見たことがあります。日本の「もち」を食べたことはあるけど、自分でついたことはないです。今回「もちつき大会」に参加して、本当に楽しかったです。初めはどうやるのかよく分からなくて、ちょっと緊張しました。でも商店会の方に聞いて、前の人のお真似をして、だんだんできました。あまり上手にできませんけど、自分で手で丸くて温かいもちを作って食べて、とてもおもしろかったです。その日は寒かったけど、みんなで一緒にもちをついてもち入りぜんざいを食べて、心から温かかったです。

市岡日本語教室のみんなのおかげで、日本の生活はだんだん慣れました。ありがとうございます。

(王麗芳(オウレイホウ)さん)



◎昨年の年末に、大城さんやみなさんのおかげで、大阪港駅の近くの天保山商店会のもちつき大会に参加して、一緒に餅を作りました。お餅を作るのはたくさんのお米をしなければなりませんので、当日みなさんはお米を炊いたり、お餅をついたり、お餅を小さく丸めたりし、本当に忙しかったです。そんな様子は台湾の母が新年を迎える料理を、忙しく作る様子を思い出させ、とても懐かしかったです。お餅をつくことはみんなも

体験したいと思うので、私達は順番につきました。この時、全員カメラを持って、いっぱい写真を撮って珍しい体験を記録しました。何故なら、今みんなはほとんど都会に住んでいるので、そんな伝統的な体験はなかなかできないからだだと思います。だから、次のイベントを行われる時、ぜひ大城さんたちと一緒に行ってみてください。

私は台湾から日本に来て、もう1年がすぎました。この間にたくさんのイベントに参加しました。自分が作ったお餅を食べ、お餅をつく大会は初めてでした。だから、今回この大会に参加できて、本当に楽しくてよかったです。(黄偉誠さん)



外国人力士はなぜ日本語がうまいのか

4班 班長 前田仁志

目からウロコです

去年は、相撲界はいろいろ問題があって、大阪場所は開催されませんでした。今年は大丈夫なようです。といっても市岡教室では相撲に興味のある方は少ないと思います。僕自身も余り興味はありません。

でも、テレビのニュースで白鵬が優勝したときのインタビューなどを聞くと、くせのないきれいな日本語を話していることに気が付きませんか？白鵬だけでなく、先場所優勝の把瑠都もりっぱな日本語でした。因みに白鵬はモンゴル、把瑠都はエストニア出身です。一方、スポーツニュースなどで、お立ち台でヒーローインタビューを受けているプロ野球の外国人選手は誰も通訳を介して話しています。また、僕は神戸製鋼ラグビー部(コベルコスティーラーズ)のファンクラブ会員で一年に一度、ファンの集いに参加します。サインを貰ったり、談笑したり、一緒に写真を撮ったりします。でも、ファンと日本語で会話している外国人選手はみかけません。

さて、相撲に戻りますが、以前、早稲田の先生が、相撲部屋に行って、「外国人力士と日本語」の事について研究され、本も書かれたということ。テレビで見た記憶があって、図書館に行って調べようと前から思っていたのですが、偶然、他の番組を録画予約しようと新聞の番組欄を見ていてNHKBSの「語学コロシウム」という番組で「外国人力士と日本語」のテーマで放送があるのを見つけ、ヒョットして思いそれを録画して見ました。その中で、僕が探していた本の著者、早大大学院日本語研究科の官崎里司教授も出演されていて、本のタイトルも分かりました。勿論、早速ゲットしました。『外国人はなぜ日本がうまいのか』官崎里司著 明治書院 税込みで 1,365円。(以下、この本とかきます)

ちょっと中入り。

①この本によれば、日本語と同じウラル・アルタイ語系のモンゴル語を話す人々にとって日本語の発音はさほど難しいものではないらしい

